



体験活動プログラム



Hands-on Activities 東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。

学年別参加者数
H24～30合計



有機農場ボランティア(アメリカ)



地域教育現場体験(北海道)



国内の畜産(附属牧場)



医療体験(東大附属病院)



書籍編集体験
(東京大学出版会)



日本語授業サポート
(スウェーデン王立工科大学)

体験活動プログラムの効果 ※平成30年度

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学コースの大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察、さらに面接調査により検証しています。

質問紙調査による効果評価

体験活動の前後で、パーソナリティにおける「外向性」、情動知性の「幸福感」と「社交性」、精神的な回復力に関する「肯定的未来志向」が高くなるという変化が考えられる。

参与観察

フル・インクルーシブ教育を実践する小学校でのゲスト・ティーチャー体験プログラム参加学生の変化を活動観察やインタビューから考察。

⇒体験先への理解だけでなく自身の認識の変容という高次の効果も得られた。

参加学生の感想

離島の公営塾で高校生への学習指導を行った。高校生が学習成果の向上を喜んでいる姿や、「大学生活」について話をしたときに、進路の選択肢としての進学を考え始めたような真剣な眼差しを見ることができ、充実した経験となった。(離島での学習支援)

実際に行われている手術の行程を見学した。特にダヴィンチというロボットを使った手術では、先生の操作とロボットの精巧さという医学と工学の連結を目の当たりにし、大変貴重な体験となった。(東大附属病院)



参加学生が活動について発表する報告会では、参加学生有志が司会や誘導を務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

